

やり方は人それぞれ

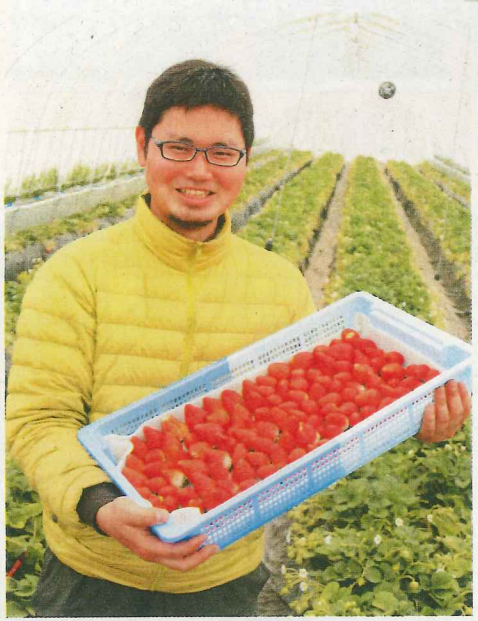


だから
農業は面白い

素通り
禁止
足利

2017年就農

いちご生産者
ハウス7棟
20a



ぜんぶ大変
ぜんぶ楽しい

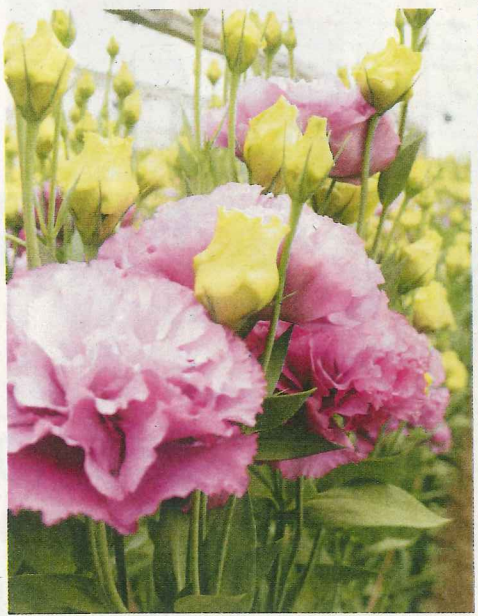
小林大介さん(32歳)

「ぜんぶ大変だけど、ぜんぶ楽しい」小林さんはいちご生産者として1年目。祖父がいちご農家で、自分もいちご好き。将来農業をやりたいという漠然とした気持ちを抱きながら、大学卒業後、一度は違う仕事についた。その後転職が訪れる。「第二の人生を謳歌する前に父が亡くなったのがきっかけ。人生は1回きり、チャレンジするの面白い」地域の消防団のつながりから、市内いちご農家を紹介してもらい、自ら研修を志願した。国の新規就農制度を活用し、1年間の研修の後、2017年就農。好きで始めた農業は大変なこともある。家族の反対、研修先や農地探しも昔からのつながりに恵まれて、乗り越えてきた。「足利市は農業をやるにはいい環境。いちご部会の先輩方などが気にか

けてくれ、まわりのサポートもある」これから農業をはじめたい方には「まずはなにをつくるか決めること。頼りになる人を見つけること。好きなものをやるのが一番いい」と語る。小林さんは3児のパパでもある。「子供からしたら家に帰ったらパパがいる安心感がある」会社員の時よりは忙しくなったが、子供とのふれあいは多くなったと話す。改めて家族を支える大黒柱の喜びを感じている。この先のビジョンを伺うと「始めたばかりでもあるので、まずは安定させること。それから規模を増やして、将来は観光農園みたいなこともやりたい」と意欲をみせる。好きなことを仕事に、小林さんの農業の道は続く。

2012年就農

トルコギキョウ
生産者
ハウス2棟
40a



中家一郎さん(44歳)



わが子のように
育てる

「『足利をトルコギキョウ生産日本一の産地にする』という師匠の一翼を担いたい」。そう語るのは、市内でトルコギキョウを栽培する中家さん。大学を卒業して実家の建設業に従事していたが、地域の消防団で中家さんが師匠と仰ぐ室田さんに出会い、トルコギキョウをつくりたい気持ちが芽生えたという。「花をつくる技術は各地方にもあるが、土を20、30年も使い続けるのは難しく、日本の花生産者は悩んでいる。でも、ここには師匠の室田さんがいる。」足利の花生産者たちは自分たちで勉強会を開き、日々情報共有し、研鑽を積んでいる。「一生懸命や

る人なら大歓迎」いつでも新しい人を受け入れる体制がここにはある。

トルコギキョウの栽培について伺うと「おもしろいけど、まだまだ奥が深い。面倒をみればそれだけのことがかえってくる。手を抜けば、手を抜いただけのものしかできない。触って話しかけると、応えてくれる気がする。まるでわが子のように」と語った。中家さんは法人化して経営をしている。会社名は「榊花仁カンパニー」。由来はお子さんの名前。女の子から「花」、男の子から「仁」をとった。子だくさん父親としての人生は長い。

農業をはじめするには

～足利市では、新規で農業を始める方へ、
様々な支援を行っています～

01 農業を始めたい まずは、就農相談！

- 具体的なイメージを膨らませましょう！ <作るもの、栽培方法、就農形態（独立就農、雇用就農）>
- どのような準備が必要？ <自己資金、家族の同意と作業への参加の可否>
- 農地の確保は？ <自己所有、親戚からの譲渡、賃借>

02 作型を決めよう 何を作ろう・・・？

- 農業大学講座の受講
<足利市主催で行う、就農希望者向けの実践講座です。市内農業者のほ場を訪れ、見学・講話を受けることで、何を作るかを絞り込む参考になります>
- 市内生産物の情報収集
<足利市内で生産されている作物について、生産量や取り扱いの情報等、JAと連携して情報を提供します>

03 技術を学びたい 農業の経験がないけど、大丈夫？

- 栃木県農業大学校
<希望するコースに入学して栽培に関する事や実技を、1年かけて専門の先生から学ぶことができます>
- 先輩農家の紹介
<栃木県内の先輩農家で、希望作物の研修の受け入れ可能な方を安足農業振興事務所を通してご紹介します>
- 市内での研修 <足利市内にいる、研修の受入が可能な農家さんをご紹介します>

04 助成や支援は？ 農業を始めるにはお金が必要…どうしよう？

研修に対しては以下の支援があります

- 足利市新規就農塾
<決められた作目になりますが、62歳以下の新規就農者に対して、月額5万円の補助があります（窓口：JA足利）>
- 農業次世代人材投資資金（準備型）
<栃木県が認める研修先で研修する45歳未満の就農希望者で、一定の条件を満たす方への補助金があります（窓口：安足農業振興事務所）>

独立後は以下の助成があります

- 農業次世代人材投資資金（経営開始型）
<一定の要件を満たす新規就農者への補助金があります（窓口：足利市農政課）>
- 就農（営農）資金 <就農（営農）に係る資金融資（窓口：JA足利）>

独立後も、栃木県安足農業振興事務所、JA 足利、農業委員会と連携し、農地のあっせんや、技術指導など、多方面からバックアップ！

足利市新規就農塾 塾生募集中！！

〔事業内容〕

足利市内でいちご、トマト、トルコギキョウ、アスパラガス、大根、にんじん、なすの生産を新たに始めたい方が、農業技術や知識を習得するために必要な研修を受ける際の費用などを支援します。

〔対象者〕

- ①年齢が、18歳以上で62歳以下の方
- ②研修後、1年以内に足利市内で就農・経営を開始する方
- ③JA足利の生産部会員として活動できる方

〔支援内容〕

月額50,000円を半年毎に支給します。（最長1年間）
※国や県の就農給付金等を受給している方は非該当です。

〔申請先〕

JA足利 営農経済部営農振興課 ☎0284-22-4433

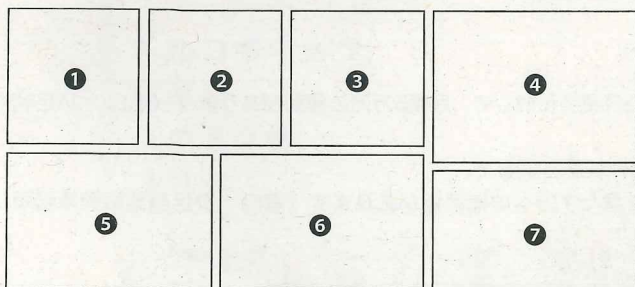
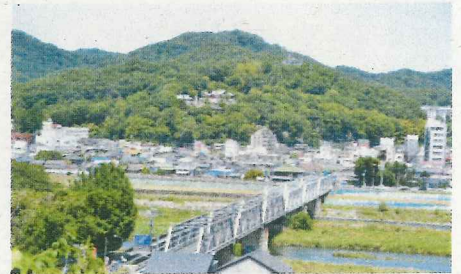


足利ってこんなところ

恵み豊かな自然と、
快適に暮らせる環境がコンパクトにまとまった街、足利市。

足利市は、北部に緑豊かな山並み、南部には関東平野が広がり、街の中央部を渡良瀬川が流れる風光明媚な街です。

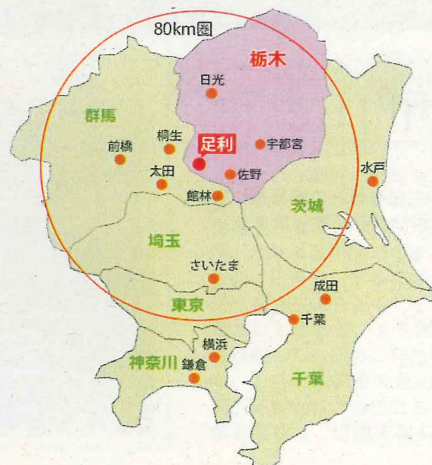
子育て支援や高齢者の生きがいをづくり、住民の健康増進などに力を入れ、豊かな自然に囲まれながら、どの世代も安心して快適に暮らせる環境が整っています。



- ① 充実した医療基盤と安心の医療体制が整備されている。
- ② 十分な保育施設が整備され、年間を通じて待機児童ゼロを達成している。
- ③ 「健幸(＝一人ひとりが健康かついきがいをもち、安心安全で幸せな生活ができること)」をまちづくりの視点に。
- ④ 「四季折々花の楽園 あしががフラワーパーク。」
- ⑤ 「足カフェ」足利で移住された人の紹介や足利の情報をUPしている。
- ⑥ 『日本遺産』史跡 足利学校」フランシスコ・ザビエルにより日本最古の学校として紹介された。
- ⑦ 足利では数多くの映画やドラマなどが撮影されている。

足利の位置

東京から約80km 電車で70分、車で約90分。
東武伊勢崎線、JR両毛線、北関東自動車道足利ICなど都心からのアクセス良好です。



お問い合わせはこちら▼

足利市 産業観光部 農政課 農業振興担当
〒326-0814 栃木県足利市本城三丁目2145
TEL: 0284-20-2161 FAX: 0284-21-0643
MAIL: nousei@city.ashikaga.lg.jp

東京から70分